

大鹿村ではリニア工事による生活や環境に与える影響をできる限り少なくし、リニア工事が地域経済や村づくりに貢献されるよう、「大鹿村リニア対策委員会」で要望事項や対策を検討しています。第 17 回および第 18 回の対策委員会の内容を報告いたします。

■第 17 回対策委員会 (平成 28 年 6 月 27 日 午後 1 時 30 分～3 時 40 分 開催)

- ・ J R 東海、長野県が出席。月単位の工事スケジュール (2016 6 月現在案) が J R 東海より提示された他、住民懇談会等での質問に対する回答がありました。(委員意見)「発生土置き場が本決定とならない内に工事スケジュールだけが進んでいる。置き場が決定しなければ影響対策も検討できない。」(J R 東海の回答)「発生土置き場は現在関係者と協議を進めている。道路トンネルの発生土は、まずは半の沢付近に仮置きすることで地権者と協議中。」(長野県の回答)「発生土置き場は測量・地質調査等を経て地権者等関係者の合意の上に決定する。半の沢は発生土置き場の候補地として検討している。」(委員意見)「発生土が最終的にどこへ行くのか?また、半の沢の方向性 (盛土による県道としての活用について) を早期に示してほしい。」

○住民懇談会及び対策委員会での質問・意見・要望とその回答について

項目	質問・意見・要望	J R 東海・長野県の回答
1 四徳大橋について	・工事用車両の増加による橋の耐力不足を懸念する。また、橋梁点検の頻度を上げてもらいたい。	・ 20 t ダンプが連続して通過しても橋の耐力に問題なし。橋梁点検は長野県で 5 年に 1 回実施している。点検頻度は、今後リニア関係車両の影響を考慮して J R 東海と協議する。
2 赤石岳公園線について	・ 10 箇所すべての改良工事が終了するまで、リニア工事車両は赤石岳公園線を通行しないのか?また 10 箇所すべての工事が今秋までに完了するのか?	・ トンネル掘削機械等の搬入に必要な拡幅箇所を優先する。段階的に工事用車両を増やしていく。工事は半年程度で終えたい。
	・ J R 東海の拡幅検討箇所以外で工事用車両が増えた場合に危険と思われる箇所がある。(要望箇所: 7 箇所について、大鹿村より長野県に要望を行いました。)	・ ガードレール・カーブミラー設置等の要望は道路管理者 (長野県) で現地確認を行ない対応を検討する。その他、リニア工事に係る大型車の走行に関しては J R 東海に確認していく。
3 工事車両の平準化について	・発生土の仮置き土量について、5 6.5 万 m ³ (昨年 6 月の説明会) から 5 4 万 m ³ (本年 4 月の説明会) に仮置き土量が減ったが、工事車両 (1 日最大: 1,350 台) に変更はないか?	・平準化後の工事用車両台数 (1 日最大: 1,350 台) に変更なし。
4 自然由来の重金属について	・具体的な処理方法について説明願う。	・ 土壌汚染対策法に基づいて処理をする。処理方法は、封じ込め、不活性化剤等による処理等、対応はケースにより異なる。
5 水資源対策について	・トンネル掘削時の薬液注入工について、薬液の沢水へのしみ出しを懸念するが、沢水へのしみ出しはあるか?あった場合はどのような対策を行うか説明願う。	・薬液注入はトンネル周辺を固めるのみであり、沢水へのしみ出しはない。
6 治安について	・工事期間中は工事関係者が長期にわたり村内に滞在することとなる。村内の治安について、その対応・対策について説明願う。	・作業員の身元確認を厳密に行うとともに、作業員への教育をおこなう。J V では全国で大きな工事を行っており、ノウハウは持ち合わせている。

○環境調査等の年次報告の公表について (J R 東海より報告)

- ・ H28. 6. 28 に H27 年度の調査報告が J R 東海ホームページで公表となる。内容は、 J R 東海長野工事事務所、大鹿分室、役場においても縦覧可能。

■第18回対策委員会（平成28年7月29日 午後1時30分～3時05分 開催）

・JR東海、長野県、鹿島JVが出席。南アルプストンネル工事説明会の説明事項についての説明の他、前回対策委員会での委員質問の回答がありました。

○松川インター大鹿線（道路トンネル新設）工事契約の締結について（JR東海より報告）

【西下工区】（仮称）西下トンネル 延長約900m 熊谷組・神稲建設共同企業体（JV）

【四徳工区】（仮称）四徳渡トンネル 延長約1,200m 戸田建設・吉川建設共同企業体（JV）

※いずれの工事もJR東海で工事を発注。7/19に契約締結、工事工期はH30.4/30まで。8月下旬に中川村、大鹿村で工事説明会を開催する予定。

○今後予定される南アルプストンネル工事説明会での説明項目（案）がJR東海より提示されました。

①事業計画 ②工事概説 ③工事用車両の運行計画及び安全対策 ④環境保全 ⑤発生土置き場の環境保全 ⑥その他

※項目ごとの詳細な説明内容は8月開催の対策委員会で提示される。

○前回の対策委員会での委員意見・質問について、下記のとおりJR東海（一部長野県）から説明がありました。

①現時点（H28.7/29）での工事スケジュールについて

【松川インター大鹿線 道路トンネル（2本）】8月下旬に中川村、大鹿村で工事説明会を開催して工事に着手したい。

【松川インター大鹿線 現道拡幅】6月末にJRと県で基本協定を締結。発注は県で行う。発注に向け準備中。

【赤石岳公園線】諸手続きが遅れており、8月下旬から工事説明会を行う。

【南アルプストンネル】松川インター大鹿線のトンネル工事着手後に南アルプストンネルの工事説明会。説明会をきちんと行ってから工事着手したい。

②村内発生土仮置き候補地について

・村内8箇所の仮置き候補地の内、大西グラウンドとろくべん館前は、土地のかさ上げ（造成）に発生土を利用することから本置きとなる。

③発生土の最終的な運搬先について

・現時点では決定したものではないが、松川町の生田地区が有力な候補地。すでに環境調査は行っている。概略図面を作成して、松川町役場、自治会単位で話をしている。これから地権者への話を進める。

④松川インター大鹿線 半の沢橋付近について

・現在、発生土を置けるかどうかの設計をするための地質調査の準備をJR東海で進めている。長野県として、（盛り立てた土を利用して）県道として活用できるかの判断を掘削開始までにしたい。

⑤南アルプストンネル 工事説明会の公開について

・JR東海として現時点では非公開での開催を考えているが、村単位の説明会は公開、自治会単位は非公開というやり方ができないか、持ち帰って検討する。

○その他（事務局報告）

・中部電力による送電計画の通過ルートに係る自治会への説明会が、7月5日に下青木、6日に上蔵、12日に北の原の各自治会で行われた。今後、地権者に説明を行った後に現地調査に入る。

・鹿島JVよりできる限り大鹿村内において物品等の購入を行いたいとの申し出があり、7月7日に鹿島JVと大鹿村商業部会との顔合わせ・打合せを行った。今後打合せを行って詳細を決めていくこととなる。

○次回対策委員会（8月25日予定）について

・今後予定される南アルプストンネル工事説明会の内容について、JR東海に具体的な説明を求め、その内容を確認・協議していきます。

*現在大鹿村内において、リニア工事は行われておりません。

*現在行われているリニア着工前の調査状況は、大鹿村ホームページ、大鹿村ケーブルテレビ文字放送・データ放送で確認いただけます。